

(様式1-2)

提出日：2021年5月14日

2020年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業

## (2) 研究成果の概要

課題名	オートファジー抑制因子Rubiconの機能発現機構の解明		
研究代表者	氏名	上西達也	
	所属機関名・部局名	大阪大学・大学院医学系研究科	
	職名	助教	
事業名 (該当の事業名の右欄に○)	○	共同研究員	
		超高磁場NMR共同利用研究課題	
		クライオ電子顕微鏡共同利用研究課題	
		客員フェロー	
蛋白研受入担当教員名	中川敦史		
<p>Rubiconのどの領域がこの小分子との相互作用に必要なかを明らかにするために、ドメインを欠損させたRubiconの複数の変異体にエピトープタグを導入し、それぞれが小分子を架橋したセファロースビーズと結合するかどうかを調べている。具体的には、作製したコンストラクトを発現させ、ビーズと共沈してくる変異体タンパク質をSDS-PAGEとウェスタンブロットティングにより定量化している。これまでに予備的な結果は得ているが、再現性に乏しいために条件検討を重ねている。今後は、Rubiconとの相互作用が報告されているタンパク質と上記のドメイン欠損変異体をヒト培養細胞で一過性に発現させ、両者が共沈する組み合わせ・条件を見出し、形成された安定な複合体について生化学的なキャラクタリゼーションや構造解析を行う予定である。</p>			